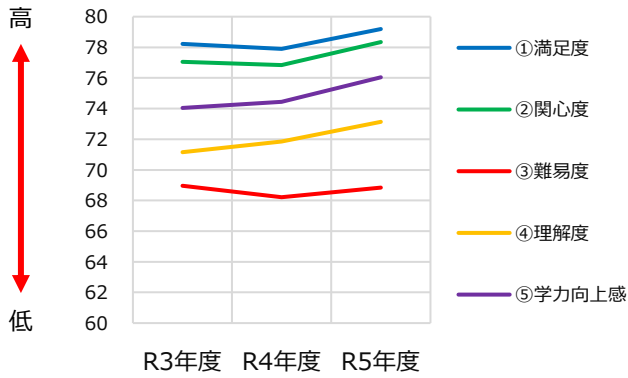


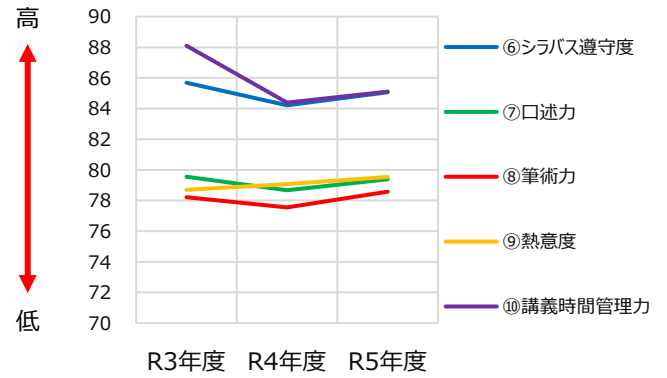
八戸工業大学 授業評価結果全学平均値（経年変化）

授業評価アンケート（設問①～⑤）



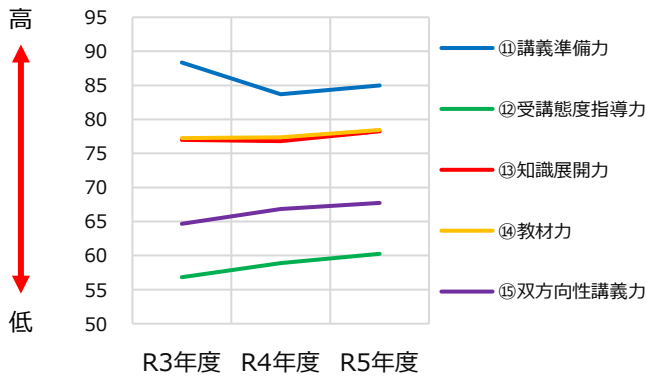
	①	②	③	④	⑤
R3年度	78.2	77.0	69.0	71.2	74.0
R4年度	77.9	76.8	68.2	71.8	74.4
R5年度	79.2	78.3	68.8	73.1	76.0

授業評価アンケート（設問⑥～⑩）



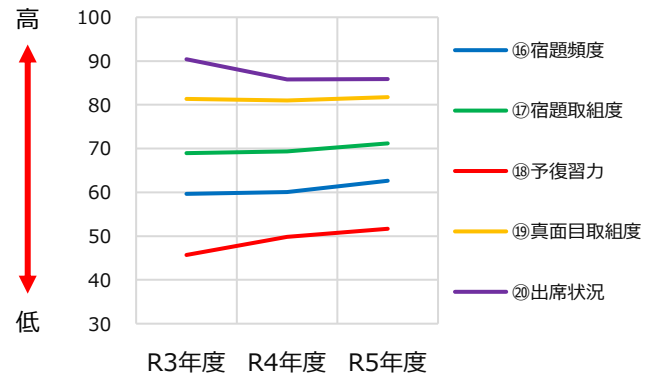
	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
R3年度	85.7	79.6	78.2	78.7	88.1
R4年度	84.2	78.7	77.6	79.1	84.4
R5年度	85.1	79.4	78.6	79.5	85.1

授業評価アンケート（設問⑪～⑮）



	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
R3年度	88.4	56.8	77.0	77.3	64.7
R4年度	83.7	58.9	76.8	77.4	66.8
R5年度	85.0	60.3	78.2	78.4	67.7

授業評価アンケート（設問⑯～⑳）



	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
R3年度	59.7	69.0	45.7	81.3	90.4
R4年度	60.1	69.4	49.9	81.0	85.8
R5年度	62.6	71.2	51.7	81.8	85.9

H24年度より全科目を対象に授業評価アンケートを実施し、これまでアンケートの設問内容・表現の改善、設問数の増加、さらにH25年度に一部のアンケートの設問及び回答の内容の改善を重ね、R5年度も同様のアンケート形式にて授業評価を行った。ここでは、R3～R5年度の各設問の平均値を比較するとともに、R5年度の授業評価についての傾向をまとめる。

まず、グラフから読み取れるようにR3年度の授業評価結果に対し、R4年度は項目により増減しているが、R5年度ではR4年度に比べ、全項目で上昇傾向が認められる。特に④理解度、⑤学力向上感、⑨熱意度、⑫受講態度指導力、⑭教材力、⑮双方向性抗議力、⑯宿題頻度、⑰宿題取組度、⑱予復習力については令和3年度から継続的に上昇傾向が続いている。いずれも学生の学力の向上に直接的に繋がる要素である。一方、令和4年度に減少傾向となった項目については、全学的に取り組んだ科目レベルの点検・改善活動により上昇傾向が認められるが、令和3年度に比べると未だに低い項目がある。これらについては引き続き科目レベルの点検を通じて分析するとともに、さらなる改善策の検討が望まれる。

なお、①満足度、②関心度については令和4年度に一度減少傾向となったが、令和5年度には令和3年度以上の数値となっており、これは創意工夫を通じて授業改善を模索した結果であると考えられる。今後も設問の一部にある自由記述欄に書かれた授業に対する学生の率直な意見などを含め、毎年実施している授業評価アンケートの結果を授業改善や教育改善につなげていきたい。